自己評価・学校関係者評価結果公表シート

2024年度

明星幼稚園

1. 園の教育目標

ビジョン

- ・すべての園児が自信をもって生活できる幼稚園
- ・自分だけでなく友だちを大切にできる幼稚園
- ・好奇心を育み、自分の「好き」をたくさんみつげられる幼稚園

教育目標

「多様性を認め、未来を切りひらく子の育成」

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

2-1. 全体事業計画

(1) 「探究活動」(「めばえの時間」)の推進

明星幼稚園のビジョン及び教育目標を実現するため、「遊びの中の学び」をテーマに、「探究活動」(「めばえの時間」)を中心とした明星幼稚園オリジナルの探究プログラムを作成しています。「めばえの時間」の各分野(ア)理数、(イ)言語、(ウ)芸術で、あらたな気づきや発見を促すだけでなく系統性を担保した「学びが深まるカリキュラムを」構成します。

(2) 幼小連携の強化

上述の「めばえの時間」については、明星小学校における探究学習(くぬぎの時間)に接続するカリキュラム構成で、明星幼稚園から明星小学校に内部進学する園児たちがつながりを意識した学びに深めることができる組み立てとしています。

2024年度は、幼小連携教育プログラムとしてのより効果的な「探究活動」(「のびのびタイム」、保護者の参観を一緒にした子どもたち同士の交流体験「にこにこの日」など)の計画・立案、実践研究を行っていきます。

(3) 教育力の向上

保育に関する研究・研修会、小学校の授業参観、幼小合同研修会などを通して、園児たちに還元できる教員の教師力向上を図り、将来的には日本の保育をリードできる教員の教師力の実現を目指します。

(4) 教育環境の整備

上記に述べた「探究活動」を実践するうえで、重要な教師力、教育環境、遊具などのあり方について見直しを行います。特に、幼児期の理数的思考等はいかに育成できるかを明星小学校と共同研究をしていながら、必要な教師力、教育環境、遊具などの観点から、教育の質の向上を図っていきます。

(5) 広報活動の強化

明星幼稚園ブランドとして教育プログラム「めばえの時間」を中核に据え、広域的な広報を展開していきます。具体的には、子育て冊子への積極的な掲載やホームページなどのコンテンツの強化を重点的に行い、明星幼稚園の教育力を発信します。また、幼小連携を強化し、明星幼稚園のブランドと15年一貫教育のよさを入園候補者に向け分かりやすく情報発信していきます。

2-2. 学年毎の計画

(1) 年少

- ①集団生活に必要なルールや決まりを守ろうとする
- ②動植物（昆虫含む）の世話や観察を通して、育てることの大切さ、命を大事に思う気持ちを知り、感動や喜びを分かち合う
- ③生活習慣の自立をし、自分で行おうとする気持ちを持つ

(2) 年中

- ①発見や工夫を楽しみながら遊びを進める
- ②様々な活動に意欲的に取り組み、諦めることなく向き合い、自己肯定感を味わうことが出来る
- ③動植物に興味を持ち、探究心を持って関わる

(3) 年長

- ①自分の思いや考えを分かりやすく伝えたり、相手の言葉に耳を傾けたりして、生活や活動を進める
- ②協調性を持ちながら、手段生活や園生活に意欲的に取り組み、達成感や喜びを味わう
- ③就学に向けて、自分で考える習慣をつけ、学びにつながる力を伸ばす

3-1. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1) 「探究活動」 （「めばえの時間」）の 推進	A	<p>保護者アンケート結果より</p> <p>◎「ガーデニングタイムを通して、動植物（昆虫を含む）に興味を持ち、観察したり世話をしたりすることで、自然への興味の幅を広げている」 とてもそう思う 46.0% そう思う 44.0%の合計は 90.0%</p> <p>◎「ガーデニングタイムは、『あそびの中の学び』につながる活動だと思いますか」 とてもそう思う 50.0% そう思う 44.0%の合計は 94.0%</p> <p>2024年度は全学年で本格的に「ガーデニングタイム」に取り組んできました。園庭の植栽を充実させ、園児の興味関心の幅を広げる環境作りから、探究心を高めるための取り組みです。専門家の力も借りながら、園児自身が環境づくりに携わる環境づくりができたことが、大きな学びにつながったのだと考えます。</p> <p>その他の探究活動としては以下の通りです。</p> <p>○全学年：「臨床美術」、「英語あそび」、「運動あそび」 「劇あそび」、「食育」</p> <p>○年長組：宇宙教育 「バルーンロケット」・・・3年目 「ロケット教室」((株)植松電機協力)・・・2年目</p> <p>○年中組：「サイエンス教室」(明星大学理工学部協力)</p> <p>○年少組：「運動あそび」(幼児体育連盟指導員)</p> <p>めばえの時間の活動の認知度は高く、特に全学年で取り組んだ「劇あそび」については、家庭での会話が弾んだ取り組みとして、最も評価を受けている取り組みの一つです。他の取り組みにおいても、計画的に位置づけた取り組みを継続的に行っていくことにより、各取り組みが「点」でなくつながりを持った「線」の取り組みと位置づけられるようになってきました。</p>
(2) 幼小連携の強化	B	<p>・保護者アンケート結果</p> <p>◎「明星小学校に関する明星幼稚園対象の説明会や個別相談会には参加されましたか」 年長組 参加した 61.0% 参加していない 39.0% 年中組 参加した 26.0% 参加していない 74.0% 年少組 参加した 19.0% 参加していない 81.0%</p> <p>◎「明星小学校に関する明星幼稚園対象の説明会や個別相談会を通じて、明星小学校についてよく知ることができましたか」 年長組：とてもそう思う 28.0% そう思う 44.0%の合計は 76.0% 年中組：とてもそう思う 16.0% そう思う 33.0%の合計は 49.0% 年少組：とてもそう思う 12.0% そう思う 1.0%の合計は 13.0%</p> <p>◎「明星小学校に関する情報の提供について満足していますか」</p>

	<p>年長組：とてもそう思う 27.0% そう思う 61.0%の合計は 88.0% 年中組：とてもそう思う 7.0% そう思う 52.0%の合計は 59.0% 年少組：とてもそう思う 12.0% そう思う 43.0%の合計は 55.0%</p> <p>情報提供の満足度の向上は、保護者の参観を一緒にした子どもたち同士の交流体験「にこにこの日」などの計画・立案した成果と言えます。学年による満足度の差は、就学に近づく学年ほど高い数値になっています。</p> <p>◎小学校への内部進学者 23 名（32%）で、進学者が例年になく多かった昨年度（44%）から-12%となりました。</p> <p>内部進学希望者に対して、入学試験体験会を実施し、好評価を得ました。また、園児児童の合同活動「にこにこの日」、就学体験「のびのびタイム」を定期的実施し、幼小の連携の場を保護者に参観してもらう機会を持ってました。</p> <p>今後は、より内部進学希望者自体を増やすさらなる取り組みの検討を小学校と進めていきます。</p>
(3) 教育力の向上	<p>B 全教員で年間 2 回の研修会の機会と持ちました。第 1 回園内研修会では、ガーデニングタイムでサポートいただいている園芸の専門家による植物の栽培、食育の講演、実技を、また、第 2 回目の研修会では、明星幼稚園の保育の今後について、ディスカッション、意見交換を行い、次年度へと繋げられるようにしました。</p> <p>年間 2 回の幼小合同研修会を実施しました。小学校の授業を同日に参観し、卒園生の育ちを見ることができたのは、保育を行う上で参考になることでした。</p> <p>総合学園ならではの利点を生かした貴重な機会になったと考えます。</p> <p>その他、府中市幼稚園協会主催の年間 10 回の研修会、夏期、冬期の休業期間を活用した研修会への参加による自己研鑽など、指導力の向上に努めることのできた 1 年間でした。</p>
(4) 教育環境の整備	<p>B 2025 年度からの学びの時間、教育環境の改革にむけて、「探究活動」の見直し、「学びの園庭」の整備等に取り組んできました。園庭の植栽環境の拡充、コンポストの設置、親子での植栽看板づくりなど、成果が得られました。</p> <p>また、園児全員で学ぶ時間をより多く確保するための園バスの新規 1 台導入、園バスルートの見直し、預かり保育時間の拡張、それに伴う人員の確保等について、次年度からの運営方法について計画・準備を行いました。教師力、教育環境等の面から教育の質の向上を一層図っていきます。</p> <p>幼児期の理数的思考等をいかに育成できるかについては、明星小学校との共同研究には至りませんでした。</p>

(5) 広報活動の強化	B	<p>「明星幼稚園の教育力」については、HP や Instagram 等を中心に、府中校事務との連携し例年以上に幅広く発信することができました。府中校事務には、円滑な広報業務の多くの支援をいただき、昨年以上のフットワークの良さを実現することができました。説明会、イベントの土曜日開催を増やしましたが、十分な成果は得られませんでした。</p> <p>◎2025 年度年少入園児数 45 名（前年度より－5 名）</p>
-------------	---	--

3-2. 評価項目の達成及び取組状況（学年毎の計画）

評価項目	結果	理由
<p>(1) 年少組 年少① 集団生活に必要なルールや決まりを守ろうとする</p>	A	<p>・年少保護者アンケート結果 「集団生活に必要なルールや決まりを守り、友だちとのつながりを広げることが出来るようになりましたか」 <u>とてもそう思う(43%)そう思う(52%)の計95%</u></p> <p>「社会生活における望ましい『態度や習慣』、『他者への思いやり』、『協同の精神』が芽生えましたか」 <u>とてもそう思う(38%)そう思う(57%)の計95%</u></p> <p>◎入園当初は集団生活に慣れずに自分本位な姿が見られたが、担任との信頼関係ができ、クラスに慣れてきたことでクラスの友だちにも目を向けられるようになった。欠席の友だちを心配したり、小さな集団で遊びを進めたりすることもできるようになった。また、話を聞く、座って待つなどのルールが守れるようになり、自信につながっている。</p> <p>◎2 学期になり、毎日の生活の中で担任との信頼関係が築かれ、更に集団生活に慣れたことで、担任の声掛けで集まる、整列する、片付けをするなど園生活のルールを理解し、少しずつ守れるようになってきた。また、運動会で1つの目標に向かってクラスみんなで取り組んだ経験から、集団の中の1人である意識も芽生えつつある。</p> <p>◎3 学期は、園生活の流れが分かり、生活ボードを見ながら自分たちで生活が進められるようになった。日々の生活や発表会などのクラス全員で成し遂げる行事を経験し、集団の一員であることを少しずつ意識することが出来るようになった。時には楽しくなりすぎてルールが守れなかったり、やりたいことを優先してしまったりする姿も見られたが、集団生活のルールや決まりを理解し、守ろうとする気持ちが芽生えた。</p>

<p>年少② 動植物（昆虫含む）の世話や観察を通して、育てることの大切さ、命を大事に思う気持ちを知り、感動や喜びを分かち合う</p>	<p>B</p>	<p>・年少保護者アンケート結果 「ガーデニングタイムを通して、動植物（昆虫を含む）に興味を持ち、観察したり世話をしたりすることで、自然への興味の幅を広げていますか」 <u>とてもそう思う(48%)そう思う(33%)の計81%</u></p> <p>◎1 学期、自分たちで苗を植えたり、種をまいたりすることで興味を持ち、自由遊び時にも積極的に水やりを行う姿が見られた。他学年の植物にも興味を示す子もいた。ダンゴムシやてんとう虫にも気が付き、喜ぶ姿も見られるが、その反面、虫を嫌がったり、虫がいるからと近づかない姿も見られたりした。トマトやきゅうりは収穫を喜び、会食していた。</p> <p>◎2 学期の園庭での栽培では、自分たちで植えたことで、よく観察をするなど、草花や野菜に興味を持ち、芽が出た喜びを友だち同士で感じたり、興味を持ったりすることが出来るようになった。また、学苑内の散歩を通して、どんぐりやまつぼっくりにも興味を示すほか、セミの抜け殻を探するなど、虫にも少し興味を持つことが出来るようになった。</p> <p>◎3 学期になると、コンポストの中を覗いたり、チューリップの様子を観察したりと、草花に興味を持つ姿が多く見られるようになった。また、メダカやザリガニにも興味を持っている姿も見られた。メダカは数を数えたり、何を食べるかななどを疑問に思ったりする姿も見られ、少しずつ命の大切さも感じている様子が見られた。</p>
---	-----------------	---

<p>年少③ 生活習慣の自立をし、自分で行おうとする気持ちを持つ</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年少保護者アンケート結果 <p>「自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気づいたりする中で、集団での生活を充実させることができているか」 <u>とてもそう思う(29%)そう思う(62%)の計91%</u></p> <p>◎毎日繰り返し生活の仕方を伝えることで、園生活の流れが分かり、進んで支度をする事が出来るようになった。挨拶や手洗い等は担任の真似をして行おうとする姿が多く見られた。排泄には個人差があるが、友だちの様子を見たり、担任と一緒にトイレに行ったりすることで安心して自立に向かう姿が見られている。</p> <p>◎2学期になり、出来ないことにも挑戦してみようとする気持ちが芽生え、少しずつ自分のことを自分でやろうとする意識が芽生えた。やり方を丁寧に知らせることで、出来るようになったことも増え、自信を持つことができるようになった。その反面、出来るのに手伝わってもらおうとする姿も多く見られるようになった。</p> <p>◎3学期になると生活にも慣れ、自分のことを自分でする力が育ってきている。その反面、甘えが出てきて、やってほしい気持ちは強くなったが、出来ることも増え、率先してやろうとする姿も見られるようになった。体操服を畳もうとしたり、お弁当袋の紐を結ぼうとしたり、自分の荷物は自分で持とうとしたりと、意識してやろうとする気持ちが芽生えてきている。</p>
<p>(2) 年中組 年中① 発見や工夫を楽しみながら遊びを進める</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年中保護者アンケート結果 <p>「発見や工夫を楽しみながら遊びを進め、自ら発見したり、集中して取り組んだりすることで充実感を味わっていますか」 <u>とてもそう思う(42%)そう思う(56%)の計98%</u></p> <p>「生活の中で新たな発見をし、感動や喜びを友だちと共有できるようになりましたか」 <u>とてもそう思う(39%)そう思う(60%)の計99%</u></p> <p>◎1学期は生活の中で自然、虫、植物、季節など、色々なことに目を向けられるような環境を整えてきた。自分の気持ちを伝える、友だちの話や想像する楽しさを友だちと共有し、一緒に調べながら子どもたち自身が答えを導き出す喜びが見られるようになった。友だちと共感し、話し合う環境を作っていきたい。</p> <p>◎2学期になり、行事を通して、考えを出し合う喜びや楽しさが感じられるような雰囲気や工夫を大切に、子ども同士のかかわりの中でイメージの共有や工夫、新しい発見をして試す姿が見られるようになった。発表する場では、得意なことを認め合い、教え合う姿が増え、会話も盛んになった。トラブルがあっても解決方法を友だちと一緒に見つけ出そうとする姿が見られるようになってきた。</p>

		<p>◎3学期になると、廃材の使い方、積み木やブロックの組み合わせ方など、友だちと一緒に新しい遊び方を見つけて楽しむ姿が見られた。戸外では鬼ごっこやかくれんぼなどのルールを自分たちで考えている姿も見られた。季節ならではの自然への疑問や生活の中で不思議なことに気づき、発表したり、友だちと考えを出し合ったりしながら、自分たちで答えを出すこともできるようになった。試して失敗を繰り返して成功した時の喜びも実感していた。塩の結晶作りや氷作りでは、何度も試して自分なりの自由な発想を楽しむことが出来た。</p>
<p>年中② 様々な活動に意欲的に取り組み、諦めることなく向き合い、自己肯定感を味わうことが出来る</p>	<p>B</p>	<p>・年中保護者アンケート結果</p> <p>「社会生活における望ましい「態度や習慣」、「他者への思いやり」、「協同の精神」が芽生えましたか。 <u>とてもそう思う(30%) そう思う(67%)の計97%</u></p> <p>「自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりする中で、言葉によるコミュニケーションの大切さを知る」 <u>とてもそう思う(33%) そう思う(58%)の計91%</u></p> <p>◎わくわくパレットや運動あそび、英語あそびでは、興味関心を広げる姿や不安を抱える姿などが見られた。個々に合わせた対応を通して、自分なりのやり方や楽しみ方を見られるようになった。できるようになる喜びを感じたり、達成感を味わい自信につながったりする姿が見られるようになった。さらに難しいことへ挑戦する姿を見守り、援助をしていきたい。</p> <p>◎2学期になり、行事を通してクラスを意識したり、一人ひとりが自分の力を発揮していこうとしたりする姿が見られ、達成感から自信につながっている子が多かった。友だちが頑張っていることを認め、褒めたり、少し難しいことにも挑戦しようとしていたりする姿が増え、周りからの刺激をたくさん受けていると感じる。また、少しずつ周りが見えるようになり、言われる前に行動できることが増えてきた。</p> <p>◎3学期になると、あやとり、編み物、独楽回しなど遊びの中で興味を持ち、積極的に取り組む姿が見られるようになった。節分の三方作りでは、初めての折り方にチャレンジしたり失敗しても折り方を聞いて自分の力で最後までやり抜いたりする姿が見られた。これをきっかけに、やってみればできることがあることを知り、自信のないことにもあきらめずに取り組む姿や、自分なりの簡単なやり方を考えだす姿が見られるようになった。</p>
<p>③ 動植物に興味を持ち、探究心を持って関わる</p>	<p>A</p>	<p>・年中保護者アンケート結果</p> <p>「園生活において、昆虫や魚などの小動物を身近に感じるようになりましたか。」 <u>とてもそう思う(42%) そう思う(39%)の計81%</u></p> <p>「ガーデニングタイムを通して、動植物（昆虫を含む）に興味を持</p>

	<p>ち、観察したり世話をしたりすることで、自然への興味の幅を広げている。</p> <p style="text-align: center;"><u>とてもそう思う(46%) そう思う(44%)の計90%</u></p> <p>◎栽培している植物の育ちの変化を見ながら、気付くことの楽しさや違いを見つけるなど、友だちと競い合いながら、発見することへの意欲が見られるようになった。また、気付いたことを調べたり、想像したりしながら、探究する楽しさを友だちと一緒に味わうことが出来た。おじぎ草の不思議な動き、食べられる花など珍しい植物の栽培から、食虫植物への興味へ広がった。今まで以上に興味を持つことができたので、子どもたちの興味に合わせた環境を作っていきたい。</p> <p>◎2学期になり、行事に向けた活動の中で、自分の得意なことを見つけ、自分の力に気づき、発揮しようとする姿が見られた。友だちとかわり合うことが増え、友だちの得意なことを認めて教えてもらう姿が見られるようになった。また、教え合う姿や励ます姿も見られるようになりお互いに刺激し合っていた。思いや考えの違いがあっても、自己実現するために会話が弾んで家う姿も見られるようになった。</p> <p>◎3学期になると、フォトフレームを通して見える景色や自然物の角度を変えると見え方が違うことの楽しさを見つけることができた。季節を感じる氷作りでは、試行錯誤を繰り返し、積極的な意見交換をしているうちに、気候との関係性に気づくことができた。この経験から、活動や遊びの中で疑問や興味関心を広げる姿が増えた。木の枝、実、落ち葉、花びらなど、おままごとに使うだけでなく、コンポストを活用して遊びを考えたり、文字を書いたりするなど、自然物を生かした遊びの広がりが見られるようになった。</p>
<p>年長① 自分の思いや考えを分かりやすく伝えたり、相手の言葉に耳を傾けたりして、生活や活動を進める</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>・年長保護者アンケート結果 「自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりする中で、集団での生活を充実させることができましたか」 <u>とてもそう思う(42%)そう思う(58%)の計100%</u></p> <p>「生活の中で新たな発見をし、感動や喜びを友だちと共有できるようになりましたか」 <u>とてもそう思う(52%)そう思う(48%)の計100%</u></p> <p>◎1学期はお当番活動やおみこし作りなど、クラスの中で、自分の思いや考えを発表する時間を設定することで、以前よりも自分の考えや思った事を言葉で伝えようとする気持ちは個々に強くなってきている。まだ自分の意見を一方的に伝えたりする場面も目立つが、経験を重ねることで友だちの思いに共感したり、みんなで話し合ったりする雰囲気作りはできてきている。</p> <p>◎2学期になりクラスの中の雰囲気にも慣れたことで、集団遊びを楽しむ姿が多くみられ、遊びの中での意見交換も以前より活発に行っている。自分の思いを相手に伝え、互いの良さを認め合おうとする成長した姿も見られるが、時に一方的な言い方でトラブルになる姿や、言葉遣いが気になる場面も見られる。</p>

	<p>◎3学期になると新しい活動に積極的に参加する事が増え、経験を生かして自分たちで誘いあい、遊びを継続する姿がみられる。クラス間を超えての交流も多く見られるようになり、その中で互いの意見を聞きあったり、喜びを分かち合ったりする姿もあり、大いに成長が見られたが、子どもたちが満足する十分な時間の確保や、継続した遊びの発展にはやや難しさがあった。</p>
<p>年長② 協調性を持ちながら、集団活動や園生活に意欲的に取り組み、達成感や喜びを味わう。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長保護者アンケート結果 「集団生活の中で友だちの気持ちに寄り添い、困っていたり泣いたりする子に思いやりを持って接する心を持つことができましたか」 とてもそう思う(40%)そう思う(50%)の計90% 「集団生活に必要なルールや決まりを守り、友だちとのつながりを広げることが出来るようになった」 とてもそう思う(50%)そう思う(48%)の計98% 「発見や工夫を楽しみながら遊びを進め、自ら発見したり集中して取り組んだりすることで充実感を味わっている」 とてもそう思う(55%)そう思う(48%)の計98% <p>◎1学期はクッキング活動や共同制作の活動などでは、年少や年中児の活動を思い出し自信を持って取り組む様子が見られる。周囲に合わせようとする気持ちが持てない場面も見られるが、友だちと一緒に様々な集団活動に意欲的に参加しようとする気持ちが強くみられるようになってきている。</p> <p>◎2学期になり運動会や発表会など集団活動の経験を通し、一人ひとりが、集団の中の一員ということを以前より意識するようになっていく。友だち関係もさらに広がり、様々な事柄に興味・関心を持ちながら、新しい活動にも積極的に参加できるようになっている。</p> <p>◎3学期になると、自分だけでなく周りに目を向けられる姿がみられるようになったことで、苦手意識がある集団活動に積極的に参加し、互いに声を掛け合い、良さを認め合ったり、助け合ったりする姿も見られるようになっていく。意欲的に生活を進め、年間を通して様々な集団活動に意欲的に参加し、楽しもうとする気持ちは大いに成長が認められた。</p>
<p>年長③ 就学に向けて、自分で考える習慣をつけ、学びにつながる力を伸ばす</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長保護者アンケート結果 「就学に向けて、自分で考える習慣を付け、学びにつながる力を伸ばすことができましたか」 とてもそう思う(28%)そう思う(55%)の計83% <p>◎1学期は個人持ちの鉛筆を持つことで、字や書くことに興味を持ち、鉛筆が身近になった子が多くなり、自由遊び中も積極的に使う姿が見られる。「のびのびタイム」などで短い時間ではあるが、小学校の先生の話の聞いたり、発表する場を経験したりすることで、小学校が身近に感じるようになっていく。</p> <p>◎2学期になり机を前向きにしたり、時計を見て自分で身支度をした</p>

	<p>りする習慣を少しずつつけている。慣れてきたこともあり、生活面で雑になっている面も見られるが、全体的に生活を自分で行おうとする姿勢は強くなってきている。字を書くことに興味を持つ子が増え、鉛筆を使って自主的に文字を書いたり、紙芝居などを作ったり、遊びを広げる姿も見られる。</p> <p>◎3学期は、絵本の貸し出しや郵便ごっこを通して、自主的にお手本を見ながら書こうとする姿が見られ、文字に対する興味が広がり、就学を意識するなど、学びに対する意識も個人差はあるが、以前より強くなってきている。年中組が年長組の園生活を見学しに来た際は、お手本になろうと自分たちで声を掛け合い、年長児としての自覚をそれぞれ持とうとしていたため、短い時間ではあるが、3学期に異年齢との触れ合いはとても良い活動であった。</p>
--	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> 全体事業計画であげた「探究活動」（「めばえの時間」）の推進、幼小連携の強化、教育力の向上、教育環境の整備、広報活動の5項目に関しては、教職員力を合わせ、真摯に向き合い、一定の成果を上げることができたと考えています。 進む少子化、無償化の中で年少入園児数を確保することが重要課題で、そのための施策（園バス増便、預かり保育拡大）に力を入れてきましたが、その成果は2025年度に現れてくると考えています。 多摩地区、特に府中地区での園児の減少に伴い、年々募集が苦しくなっています。そのための対応策として、明星幼稚園のブランド化、およびその広報活動がより一層必要になってきています。「遊びの中の学び」をキーワードに、学びの場である「めばえの時間」、教師力の質の向上を図ってきましたが、教職員一同が協力して広報活動にさらに取り組んでいきます。

◎「3.4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
生活時程変更に伴う保育時間の拡充による、保育の改善、質の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊びの中の学び」を具現化すべく、カリキュラムの連続性を見直し、園児が系統的に遊びの中で学び込むことができるようにしていきます。
進む少子化の中、保育の質を維持し、明星の幼児教育で育む子ども像を教職員と保護者で共有し、保護者が安心して子どもを通わせることができ、他では得られない経験を提供していくための不断の改革が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・3年後の明星幼稚園の姿を思い描きながら、明星幼稚園の特色を踏まえたブランド化を考え、そのためのビジョンを教職員で共有していきます。 ・より質の高い学びを実現するために、すくわくプロジェクトを中心とした研究を進め、園児だけでなく、保護者参加型の教育プログラムを定期的実施していきます。 ・幼小、幼中高、幼大それぞれとの連携を強め、園児、児童、生徒、学生相互に成長し合える活動プログラムを推進します。
少子化を見据えた施策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・年少入園前のクラスとしての、満3歳児保育について研究を進め、実施の検討に入ります。 ・満3歳児保育以前の1歳児、2歳児、マタニティーへの働きかけを検討し、早い段階からの知名度のアップと、子育て支援の場を創出の施策をします。
広報の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度導入の園バス、預かり保育について、いよいよ全面的にアピールできる年です。少子化の中、子どもを通わせやすい幼稚園として広報に力を入れていきます。 ・未就園児対象のイベントを定期的で開催し、明星幼稚園を身近に感じていただき、教育力の高さをアピールしていきます。 ・幼小の連携を深めながら講演会や各種イベントを合同で開催するなど、「教育の明星」を地域に根差して広げていきます。

※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目の達成及び取組状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取組の状況、評価結果の根拠を記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目の達成及び取組状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。
- このシートを作成するに当たり、教職員の「個人評価シート」や、個々の指標や基準等を評価する「補助シート」を作成することも考えられる。